

第六次総合計画 施策評価シート(令和元年度)

1-④

施策

子どもたちが緑や生き物などの自然にふれながら、学べる機会を提供する

担当部局

教育委員会, 環境リサイクル局



【豊か】 めざまちの姿 子どもたちが自然にふれながら、健やかに育っている

市の基本方針

- 次世代を担う子どもたちが四季を通して緑や生き物などの自然とふれあう中で、楽しさや喜び、またいのちの大切さを実感できるよう、自然体験活動の機会を充実します。
- 学校と地域のボランティアや市民団体、事業者等が連携し、子どもの環境教育を効果的に実施するよう努めます。
- 子どもたちの自然体験活動を支援する指導者やボランティアなどの育成と資質向上を図ります。
- 子どもたちの自然への興味や関心を高め、自らの学びを支援するため、計画的に施設や設備の充実に努めます。

数値目標

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法																																			
自然の中で遊ぶことが楽しいと思っている子どもの割合	↑	小学生・中学生の児童生徒対象のアンケート調査で、「自然の中で遊ぶことを楽しいと思いますか。」という設問に対して、『とてもそう思う』『そう思う』と回答した人の割合。																																			
<table border="1"> <caption>自然の中で遊ぶことが楽しいと思っている子どもの割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>87.6</td><td>87.6</td></tr> <tr><td>H23</td><td>81.8</td><td>87.6</td></tr> <tr><td>H24</td><td>83.9</td><td>87.6</td></tr> <tr><td>H25</td><td>84.1</td><td>87.6</td></tr> <tr><td>H26</td><td>85.1</td><td>87.6</td></tr> <tr><td>H27</td><td>85.8</td><td>91.0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>83.1</td><td>91.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>85.3</td><td>91.0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>84.2</td><td>91.0</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>91.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>95.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績値 (%)	目標値 (%)	H21	87.6	87.6	H23	81.8	87.6	H24	83.9	87.6	H25	84.1	87.6	H26	85.1	87.6	H27	85.8	91.0	H28	83.1	91.0	H29	85.3	91.0	H30	84.2	91.0	R1		91.0	R2		95.0	<p>動向(Ⅰ)/内訳(Ⅱ)/分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、3.4ポイント下がり、前年度に比べ、1.1ポイント下がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P115】</p> <p>(Ⅱ) 学年別で見ると、「とてもそう思う」「そう思う」と答えた割合は、小学生で高く、中学生では低い傾向が見られる。男女別で見ると、「とてもそう思う」「そう思う」と答えた割合は、男子児童生徒の方が女子児童生徒より高くなっている。</p> <p>(Ⅲ) 昨年度に比べ実績値が下がっているのは、子どもが遊ぶ環境が変化し、自然の中で遊ぶ機会そのものが減っていることが影響していると考えられる。</p>
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																																			
H21	87.6	87.6																																			
H23	81.8	87.6																																			
H24	83.9	87.6																																			
H25	84.1	87.6																																			
H26	85.1	87.6																																			
H27	85.8	91.0																																			
H28	83.1	91.0																																			
H29	85.3	91.0																																			
H30	84.2	91.0																																			
R1		91.0																																			
R2		95.0																																			
親子・家族で日常的に自然にふれあえる場があると思う人の割合	↑	市民アンケート調査で「市内に、親子・家族で日常的に自然にふれあえる場があると思いますか。」という設問に対して、『あると思う』と回答した人の割合。 ※H21(基準値)の設問は「親子・家族で日常的に自然にふれあえる場があると思いますか。」																																			
<table border="1"> <caption>親子・家族で日常的に自然にふれあえる場があると思う人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>58.4</td><td>58.4</td></tr> <tr><td>H23</td><td>54.5</td><td>58.4</td></tr> <tr><td>H24</td><td>51.7</td><td>58.4</td></tr> <tr><td>H25</td><td>63.7</td><td>58.4</td></tr> <tr><td>H26</td><td>62.6</td><td>58.4</td></tr> <tr><td>H27</td><td>61.8</td><td>68.0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>58.7</td><td>68.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>55.6</td><td>68.0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>60.1</td><td>68.0</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>68.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>77.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績値 (%)	目標値 (%)	H21	58.4	58.4	H23	54.5	58.4	H24	51.7	58.4	H25	63.7	58.4	H26	62.6	58.4	H27	61.8	68.0	H28	58.7	68.0	H29	55.6	68.0	H30	60.1	68.0	R1		68.0	R2		77.0	<p>動向(Ⅰ)/内訳(Ⅱ)/分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、1.7ポイント上がり、前年度に比べ、4.5ポイント上がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P5】</p> <p>(Ⅱ) 「あると思う」と答えた人の年齢別の割合を見ると、20歳代から40歳代で高くなっている一方、16歳以上19歳以下が一番低くなっている。</p> <p>(Ⅲ) 実績値は上がっているが目標値には達していない。これは、親子・家族が野外で遊ぶ機会や場所が減ったことが一つの要因と考えられる。</p>
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																																			
H21	58.4	58.4																																			
H23	54.5	58.4																																			
H24	51.7	58.4																																			
H25	63.7	58.4																																			
H26	62.6	58.4																																			
H27	61.8	68.0																																			
H28	58.7	68.0																																			
H29	55.6	68.0																																			
H30	60.1	68.0																																			
R1		68.0																																			
R2		77.0																																			

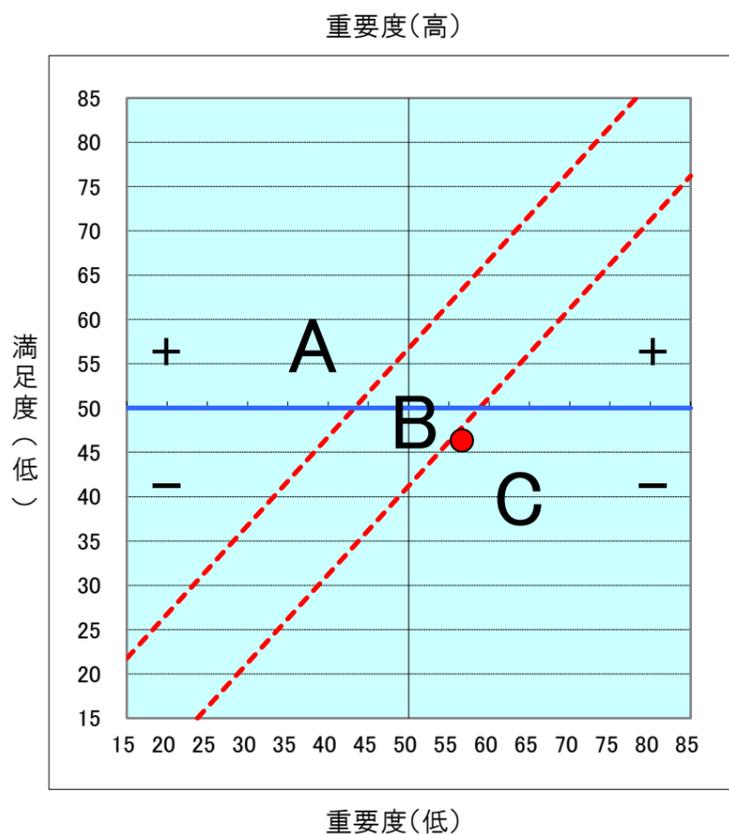
まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
自然にふれる活動に参加している子どもの数 (人/年度)		少年自然の家の利用者(乳幼児+小中学生), 自然史博物館主催の自然観察会等の屋外活動, 冒険遊び場, 親子水辺教室, 海辺教室, こどもエコライフチャレンジ, 環境学習センター主催の屋外活動への参加児童生徒数 ※H21は, こどもエコライフチャレンジへの参加者ではなく, 自然エネルギーキャラバンへの参加者数を計上。 ※H25より, 環境学習センター主催の屋外活動への参加者数を追加。
		<p>動向(Ⅰ)/内訳(Ⅱ)/分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は, 基準年に比べ, 2,064人減り, 前年度に比べ, 311人減った。</p> <p>(Ⅱ) 内訳は, 少年自然の家の利用者(乳幼児+小中学生)が10,429人, 自然史博物館主催の自然観察会等の屋外活動が378人, 冒険遊び場が1,570人, 親子水辺教室, 海辺教室, こどもエコライフチャレンジの合計が50人, 環境学習センター主催の屋外活動が135人。</p> <p>(Ⅲ) 全体の実績値は昨年度から微減している。内訳を見ると, 自然史博物館主催の屋外活動・親子水辺教室・海辺教室・こどもエコライフチャレンジの参加者は減少したが, 少年自然の家・冒険遊び場・環境学習センター主催の活動の参加者は増加している。</p>

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(Ⅰ)/平成30年度の主な実績(Ⅱ)/今後の方向性(Ⅲ)	H30年度決算額(千円)
	少年自然の家運営事業	<p>(Ⅰ) 恵まれた自然環境の中で, 子どもたちに野外活動や集団宿泊生活など学校や家庭で得難い体験の機会を提供することで, 心の豊かな人間性と生きる力を育むとともに, 自然を愛し自然に感動する感受性豊かな人づくりをねらいに実施した。</p> <p>(Ⅱ) 主な実績は次のとおり。</p> <p>1 子どもの利用者数 10,429人 ・受入事業の子どもの利用者数 9,958人(乳幼児801人, 小中学生9,157人) ・主催事業の子どもの利用者数 471人(乳幼児69人, 小中学生402人)</p> <p>2 子どもの参加できる主催事業の実施状況 ・家族向け事業 4回 ・少年向け事業 2回 ・自由参加事業 1回 ・生きる力応援プラン(さわやかデー) 1回</p> <p>(Ⅲ) PFI事業(倉敷市少年自然の家施設整備運営事業)による施設の建替え工事等のため, 現施設は令和元年12月末で一旦閉鎖。施設整備後, 令和4年4月から指定管理者による運営方式となる。</p>	49,591
	環境学習推進事業	<p>(Ⅰ) 市民に環境問題に関心を持ち, 理解を深めてもらうことを目的として各種普及啓発事業を実施した。</p> <p>(Ⅱ) 環境NPO・企業等と連携・協力し, 座学形式のものや, フィールドにおいて実際に体験して学ぶ各種講座を58講座実施し, 1,075人の参加があった。</p> <p>(Ⅲ) 継続して実施する。</p>	3,617
	環境学習協働推進事業	<p>(Ⅰ) 専門的な知見を有する環境NPOと協働し環境学習を推進することを目的に実施した。</p> <p>(Ⅱ) 子ども向けから一般向けを含め15事業を実施し, 470人の参加があった。</p> <p>(Ⅲ) 継続して実施する。</p>	27
	自然史博物館管理運営事業	<p>(Ⅰ) 施設・設備の適切な維持管理, 効果的な広報活動, 博物館協議会の開催, アンケートの実施等を通じて, 安全・快適で利用しやすい環境整備や利用者増に努める。</p> <p>(Ⅱ) 主な実績は次のとおり。</p> <p>1 広報広聴活動: 公式ツイッター(270ツイート)に加え, 公式インスタグラム(38回)の運用を開始, 市立4館(美術館・埋蔵文化財センター・科学センター)めぐりスタンプラリー実施, 博物館協議会の開催。</p> <p>2 博物館協議会の意見を踏まえて「運営方針」及び「資料収集方針」を策定した。</p> <p>(Ⅲ) 倉敷市公共施設等総合管理計画の個別施設方針・計画の策定を通じて, 今後の施設の方向性を定める。</p>	18,108
	自然史博物館調査研究, 標本・文献等収集, 展示, 特別展事業	<p>(Ⅰ) 市民の教養文化の向上に寄与することを目的として, 自然に関する資料の収集, 保管, 調査研究をするとともに, その成果を展示する。</p> <p>(Ⅱ) 主な実績は次のとおり。</p> <p>1 調査研究事業…研究報告34号の発行。専門誌等への寄稿105件。</p> <p>2 標本・文献等収集保管事業…標本等約82,000点, 文献等1,629点の受入れ。脊椎動物グループ(標本作製ボランティア)の活動支援。</p> <p>3 展示事業…「新着資料展」, 「折り紙昆虫展」などを実施。</p> <p>4 特別展事業…第27回特別展「岡山の野鳥たち ～むかし・いま・みらい～」を開催。観覧者数10,015人。</p> <p>(Ⅲ) 様々なニーズへの対応を図りつつ, 継続実施する。</p>	4,817

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度 決算額 (千円)
	自然史博物館教育普及、まつり事業	(Ⅰ) 次世代における人材育成に貢献することを主眼として、学校園等団体及び市民への学習支援を行う。また、市民協働による事業として11月3日に自然史博物館まつりを開催する。 (Ⅱ) 主な実績は次のとおり。(数字は参加者数、カッコ内は野外活動における中学生以下の人数) 1 教育普及事業…各種観察会等の参加者計3,197(378)人。[内訳:自然観察会680(202)人,博物館講座214人,自然の標本なんでも相談会111人,動物研究会28(10)人,むしむし探検隊延べ264(26)人,地学教室37人,手作り・折り紙教室延べ693人,スライド映写会38人,昆虫標本作り体験教室7人,出前講座等1,125(140)人]。レファレンス件数990件。新たに「倉敷春宵あかり」の協力イベントとして「体験!ないと・みゆ〜じあむ in 自然史博物館」を実施した。来場者数1,258人。 2 自然史博物館まつり事業…参加者数8,825人。 (Ⅲ) 様々なニーズへの対応を図りつつ,継続実施する。	897
	冒険遊び場支援事業	(Ⅰ) 民間団体が実施している「冒険遊び場」の活動を支援することによって,自然体験活動機会の充実を図ることを目的に実施した。 (Ⅱ) 毎月の開催と夏休みの3日間連続開催を合わせて,合計16回のプレーパークを開催した。加えて,豪雨災害で被害を受けた子どもたちの心のケアとして臨時的に11回開催し,全体で大人1,020人,子ども1,570人の合計2,590人が参加した。 (Ⅲ) 今後も支援を継続する。	270
	少年自然の家施設の管理・整備・美化事業	(Ⅰ) 施設の設備保全,利用者の安全や快適性の向上,衛生管理の改善を目的に実施した。 (Ⅱ) 主な実績は,次のとおり。 主な修繕…敷地内外灯柱(木製)取替修繕,屋内運動場照明修繕,ストレージタンク内部塗装修繕,つどいの広場法面修繕,屋内運動場レールウェイ修繕 (Ⅲ) 子どもたちが安全かつ快適に利用できるよう,施設閉鎖までの期間,必要な修繕を行い,美化清掃を継続する。	12,449
創	少年自然の家PFI施設整備運営事業	(Ⅰ) 昭和51年の建設から40年以上が経過しており,施設の老朽化が進み,大規模修繕等が必要となっている。PFI事業による建替え等を行い,令和4年4月の供用開始を目指している。 (Ⅱ) 平成30年4月に「倉敷市少年自然の家PFI事業選定委員会」を設置。同年8月に公募を開始し,参加表明した2団体の提案内容を選定委員会において審査,平成31年3月に落札団体を決定,公表した。 (Ⅲ) 落札団体がSPCを設立後,事業契約,条例等の改正を行う。令和2年1月から令和4年3月までに施設整備を行い,同年4月から令和19年1月までSPCが指定管理者として施設管理・運営を行う。	9,350

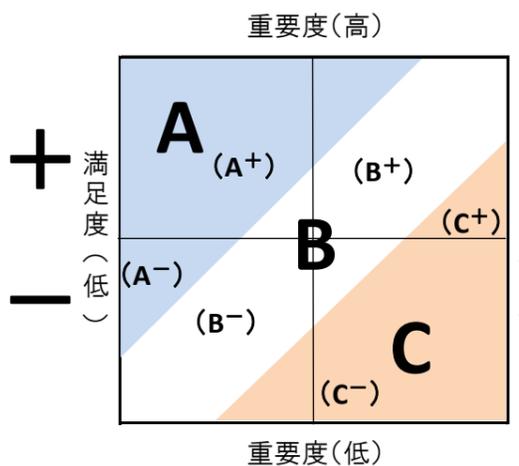
市民の重要度・満足度(R1.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
C ⁻	46.31	56.63

●重要度に見合う以上の満足度が得られている(C)
●重要度が平均値より低い(-)

【グラフの見方】



A:重要度に見合った満足度が得られていない領域
 B:重要度に見合った満足度が得られている領域
 C:重要度に見合う以上の満足度が得られている領域

※ 以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)
 +:重要度が平均値より高い部分
 -:重要度が平均値より低い部分

A⁺, A⁻, B⁺, B⁻, C⁺, C⁻

A⁺:重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

課題

- 自然史博物館は、築後47年が経過し建物の老朽化が進んでおり、あわせて、収集資料の保管や展示のためのスペースの確保が課題となっている。
- 自然史博物館は、美観地区隣接という恵まれた立地環境にありながら、観光客の利用率は多くない。特に外国語の案内が不十分なため、家族連れの外国人観光客が利用し難い。
- 少年自然の家は、築後43年が経過し建物の老朽化が進んでおり、利用者の安全確保やサービス水準等の向上を図るため、施設の更新を行う必要がある。
- G7倉敷教育大臣会合倉敷宣言を環境学習、環境教育の施策に反映し、学ぶ機会を提供するとともに、全世代に対して意識啓発を行う必要がある。特に若い世代に対しては、積極的な働きかけが必要である。

今後の取組み方針

- 昨年度策定した運営方針をふまえて中期計画を作成し、目標の達成に向けて自己評価を行っていく。また、自然史博物館が強みとする豊富な収蔵資料を、展示だけでなく教育や研究など多方面から積極的かつ有効に活用してもらうよう努める。
- 「博物館は展示のみを行っている施設である」とのイメージが強いため、自然とふれあう参加・体験型の観察会、講座、出前展示等も行っていただくことを教育関係・環境関係の機関とも連携して積極的に周知する。また観光課、倉敷観光コンベンションビューロー等と連携して、観光客等の取り組みを図るなど、立地の強みを活かした誘客に努める。
- 少年自然の家施設整備運営においては、利用者の増加を目指し、より魅力的な事業の実施に取り組むとともに、財政負担の縮減及び利用者の安全確保やサービス水準の向上等を図るため、PFI手法を活用した施設の更新及び指定管理方式による運営を行う。
- 環境学習センターを拠点施設として、市民・事業者・行政が連携して環境学習を進める。また、G7倉敷教育大臣会合倉敷宣言を施策に反映し、幼少期からの環境教育・環境学習を積極的に推進する。